

# おあしす

チュニジア南部地域のオアシス農業では、地下水がほぼ唯一の水源です。深井戸は100~3,000mの深さを持ち、高温高圧の化石水を取水しています。熱水はしばしば80°C以上に達するため、ナツメヤシ等への灌漑に利用可能な温度まで冷却する必要があります。そのために様々な装置が工夫されています。



自噴する深井戸のヘッド交換。熱水なので危険な作業です。



オアシスではナツメヤシとアルファルファを栽培。



オアシスではナツメヤシとアルファルファを栽培。



塔型装置：熱水をシャワー状に落下させ冷却します。



螺旋型装置：長い開水路を流下させて熱水を冷却します。適温になった場所では入浴に利用する住民も。



格子型装置：熱水を落下させ冷却します。日本でも温泉の冷却に類似の装置が使われています。



スケール（湯の華）の除去が大きな手間になっています。



熱水をホースで温室に導入し、トマトを促成栽培しています。

## 日本沙漠学会 2021 年 第 32 回学術大会 参加申し込みのお知らせ

### 日本沙漠学会 2021 年 第 32 回学術大会 オンライン研究発表会

【開催日時】 2021 年 5 月 29 日 (土)

【発表】 オンライン開催

【口頭発表 (10 分)】 および 【ポスター発表 (ショートプレゼンテーション 5 分 + 10 分)】

【開催サイト】 Zoom ミーティング Web サイトおよび Google Drive (ポスター掲示)

※ Zoom アドレスおよび Google Drive アドレスは 5/24 以降にご連絡いたします。

【参加締切り】 2021 年 5 月 24 日 (月)

※総会参加の可否・委任状も同時にお知らせください (vi 項参照)。

【一般参加費】 無料

【参加方法】 以下 Web サイトのフォームからお申込みください。

[https://www.jaals.net/大会-シンポジウム/2021-大会-シンポジウム/第 32 回大会参加申込/](https://www.jaals.net/大会-シンポジウム/2021-大会-シンポジウム/第32回大会参加申込/)

【プログラム】

**5 月 29 日 (土) 10 : 00 ~ 11 : 30**

<ポスター・ショートプレゼンテーション> 発表 5 分, 質疑応答 10 分

座長 : 酒井裕司 (工学院大)

No	発表者氏名	所属機関	タイトル
P1	山本真希	東京農工大学	パレスチナ刺繍の歴史とパレスチナ自治区における現状
P2	橋本裕紀 <sup>1</sup> ・島田沢彦 <sup>2</sup> ・ 関山絢子 <sup>2</sup> ・山崎由理 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 株式会社パスコ, <sup>2</sup> 東京農業大学 地域環境科学部	北海道の草地における光学-SAR 衛星データ複合利用による地上バイオマスの推定
P3	佐藤拓己 <sup>1</sup> ・島田沢彦 <sup>2</sup> ・ 関山絢子 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 株式会社シーエーシー, <sup>2</sup> 東京農業 大学地域環境科学部	ジブチにおける衛星画像を用いた深層学習による農園領域抽出
P4	鈴木綾太 <sup>1</sup> ・鈴木伸治 <sup>2</sup> ・ 渡邊文雄 <sup>2</sup> ・島田沢彦 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 大成建設株式会社, <sup>2</sup> 東京農業大学 地域環境科学部	ジブチにおける水資源データベースの検証と流域水循環に関する研究
P5	高木才叶・石塚翔・黒澤亮	東京農業大学農学部動物科学科	Spirulina の子牛代用乳原料としての活用方法の模索
P6	佐藤麻理絵 <sup>1</sup> ・後藤真実 <sup>2</sup> ・ 西川優花 <sup>3</sup> ・實野雅太 <sup>4</sup>	<sup>1</sup> 京都大学, <sup>2</sup> 東京外国語大学, <sup>3</sup> アジア経済研究所, <sup>4</sup> 東京農業大学	乾燥地・半乾燥地における「熱」の多面性 -衣・食・住・農の視点から-

**5 月 29 日 (土) 12 : 00 ~ <理事会>**

**5 月 29 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 25**

<口頭発表> 発表 10 分, 質疑応答 10 分

座長 O1-2 : 鈴木伸治 (東京農大), O3-4 : 渡邊三津子 (奈良女子大),

O5-6 : 森尾貴広 (筑波大), O7-8 : 小島紀徳 (成蹊大)

No	発表者氏名	所属機関	タイトル
O1	真木太一	九州大学名誉教授	2017 年 7 月 23~24 日の間ノ岳-農鳥岳- 広河内岳での強風雨の気象特性
O2	篠田雅人	名古屋大学環境学研究科	人類と砂漠化-多系的変遷-
O3	瀬野佳月 <sup>1</sup> ・星野仏方 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 北海道大学大学院環境科学院, <sup>2</sup> 酪農学園大学農食環境学群	気候変動と政策に左右される中央アジアの オアシス農業
O4	鈴木康平 <sup>1</sup> ・小長谷有紀 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 筑波大学, <sup>2</sup> 国立民族学博物館	モンゴルにおける植生研究への古写真活用 の可能性

休憩

05	岩崎えり奈 <sup>1</sup> ・柏木健一 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 上智大学外国語学部, <sup>2</sup> 筑波大学大学院人文社会科学研究科	エジプト西部砂漠オアシス社会における農家戦略
06	丸山優樹 <sup>1</sup> ・柏木健一 <sup>2</sup> ・相馬拓宜 <sup>2</sup> ・喜田川たまき <sup>2</sup> ・Lamia Arfa <sup>3</sup> ・Erraach Yamna <sup>3</sup> ・Lokman Zaibet <sup>3</sup> ・礪田博子 <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 農林水産省農林水産政策研究所, <sup>2</sup> 筑波大学, <sup>3</sup> National Institute of Agronomy of Tunisia	日本におけるチュニジア産オリーブオイルの消費者選好評価
07	大山修一	京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	西アフリカ・サハルのシロアリによるプラスチック製サンダルの「摂食」行動
08	田島淳 <sup>1</sup> ・海老原和真 <sup>1</sup> ・鈴木伸治 <sup>1</sup> ・真田篤史 <sup>1</sup> ・篠原卓 <sup>1</sup> ・實野雅太 <sup>1</sup> ・Ismael Tabarek M <sup>2</sup>	<sup>1</sup> 東京農業大学, <sup>2</sup> ジブチ農業省	ソーラーポンピングシステムにおける砂鉄の侵入と対策

第4回沙漠国際会議／第14回国際沙漠技術会議のアナウンス（2021年9月7～10日）  
日本沙漠学会第33回学術大会（北海道を予定）のアナウンス（2022年5月）

**5月29日（土）16：40～18：00 <研究懇談会>**

Zoom ブレックアウトルームによる懇談会を予定

**5月30日（日）10：00～12：00 <総会>**

**【事務局】**

第32回 日本沙漠学会学術大会実行委員会 事務局

E-mail : jaals2021a@gmail.com

大会委員長：小長谷有紀（企画担当理事）

詳細はホームページ <https://www.jaals.net/> をご覧ください。

日本沙漠学会 2021 年度 総会開催のお知らせ

日本沙漠学会 2021 年度総会

【開催日時・方法】 2021 年 5 月 30 日（日）10：00～ オンライン開催

【開催サイト】 研究発表会 Web サイトと同様（Zoom アドレスは後日ご連絡いたします）

【出欠】 学会正会員および名誉会員は全員，ホームページ上の学術大会参加フォームからご回答ください。

【委任状】 学会正会員および名誉会員で参加予定の方にも，Web アクセスできないトラブルを考慮して委任状の提出をお願いしております。ご理解のほどお願い申し上げます。

<https://www.jaals.net/>大会-シンポジウム/2021-大会-シンポジウム/第 32 回大会参加申込/

The DT XIV International Conference on Arid Land 開催のお知らせ

【開催日時・方法】 2021 年 9 月 7 日（火）～9 月 10 日（金）JST オンライン開催

【開催サイト】 Zoom を予定

【参加申し込み】 2021 年 7 月 31 日（水）締切り 大会 Web サイトから申込

【大会 Web サイト】 <https://dt14ical2020.jimdofree.com/>

<発表者用情報>

【発表要旨提出】 2021 年 6 月 30 日（水）締切り

【Call for Papers】

Submission of abstract: 30 June 2021

Title, author name (s) in full spelling with affiliation (s), 300-400 words abstract in English, and name of contact person with e-mail address

Early Registration Deadline: 31 July 2021 Late Registration Deadline: 30 August 2021

Manuscript submission deadline: 10 September 2021

All materials: send to [dt14ical@gmail.com](mailto:dt14ical@gmail.com)

[yoshikok@cc.tuat.ac.jp](mailto:yoshikok@cc.tuat.ac.jp)

The papers presented in the conference will be published in The Journal of Arid Land Studies after critical peer review process.

The DT XIV International Conference on Arid Land 実行委員会

FAX : +81-42-367-5735

E-mail: [dt14ical@gmail.com](mailto:dt14ical@gmail.com)

## 日本沙漠学会 2021 年 第 32 回学術大会におけるベストポスター賞について

日本沙漠学会では、学術大会においてポスター発表をする若手会員を対象に、内規第 11 条に基づいてベストポスター賞を設けています。若手会員は、ぜひチャレンジしてください。なおベストポスター賞の授賞式は、学術大会の閉会式にて執り行う予定です。

### 第 11 条 学術大会ベストポスター賞に関する内規（抜粋）

- (2) 受賞候補者は原則として、当該年度において満 35 歳以下の発表者とし学部生、大学院生と大学院修了・中退後 3 年未満の者などとする。なお受賞候補者は、会員で、かつポスターの説明者とし、第一著者でなくてもよい。さらに、当該年度において 36 歳以上の会員が受賞候補者としての選考を希望する場合には、その理由書を学会賞審査委員会（以下、審査委員会）（幹事）宛に郵送してなければならない。
- (3) 対象分野  
本賞の対象分野は理系、複合系からそれぞれ 1 件を選出する。選考対象の発表がない場合は該当なしとする。なお、受賞候補該当者は、発表申込時に、どの系での審査を希望するか明記することとする。
- (4) 審査方法
  - ・採点者は、以下の 2 項目について採点する。
    - a. 研究内容（目的・意義、研究方法、結果・考察、成果、発展性など）
    - b. ポスター表現とポスターを用いての説明技術、熱意など

問い合わせ先：

日本沙漠学会 総務委員／学会賞審査委員 E-mail : jaals@kyouritsu-online.co.jp

発表者への案内

2021 年度第 32 回日本沙漠学会学術大会発表要旨原稿の作成について

1. 発表要旨集原稿について（口頭発表・ショートプレゼンテーション発表とも）

【提出期日と提出方法】

講演要旨集原稿の提出締め切りは、**2021年5月7日(金)必着**とします。原稿は、期日までにE-mail 添付文書(MSWord形式)にて、実行委員会申込先宛(jaals2021a@gmail.com)にお送りください。その際、原稿のカラー印刷を希望される方はその旨をE-mail 本文等にご記載をお願いいたします。MS Word のバージョンにより、若干体裁がかわる場合もございますので、あらかじめご了承ください。

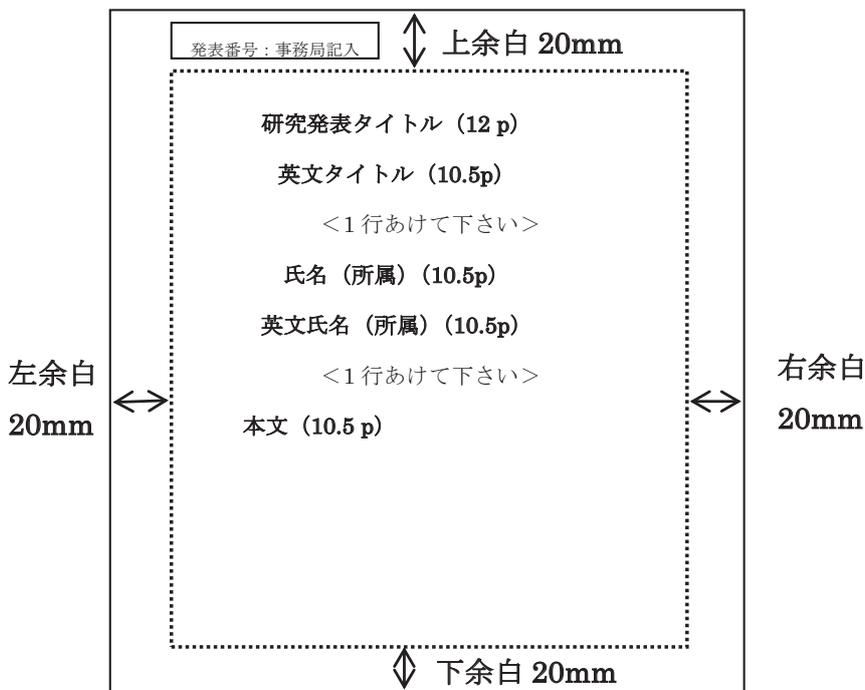
【講演要旨集のフォーマット】

- ・タイトルを含めて、A4, 2 ページ以内。
- ・原則段組なし。
- ・余白：上 25 mm, 下 15 mm, 左右 20 mm
- ※ 上部ヘッダに発表番号を付記いたします。

【記載事項と文字サイズ】

- 1) 研究発表タイトル (MS ゴシックもしくはそれに類するフォント 12 ポイント)
  - 2) 英文タイトル (Century もしくはそれに類するフォント 10.5 ポイント)
  - 3) 氏名 (所属) (MS 明朝もしくはそれに類するフォント 10.5 ポイント)
  - 4) 英文氏名 (所属) (Century もしくはそれに類するフォント 10.5 ポイント)
  - 5) 本文 (日本語は MS 明朝, 英文は Century を基本 10.5 ポイント)
- ※ ワード形式 (.doc) の要旨フォーマットを添付いたしますので、ご利用ください。

用紙サイズ A4 2 枚



## 2. 発表時間および方法について

### 【口頭発表について】

- ・発表時間は1人質疑応答含めて**20分**（目安：発表**10分**+質疑応答**10分**）です。
- ・パワーポイントもしくはpdfファイルを使って発表をお願いします。
- ・PCやインターネットトラブルに備えて、念のため発表ファイルを**5/28(金)**までにGoogleドライブ(発表者にはメールでアドレス案内)にアップロードしてください。
- ・座長による紹介後、各自のPCからファイルの共有により発表してください。

### 【ポスター・ショートプレゼンテーション発表について】

- ・発表時間は1人質疑応答含めて**15分**（目安：発表**5分**+質疑応答**10分**）です。
- ・A3版ポスター1枚もしくはパワーポイントスライド5枚程度を基準としますが様式は問いません。動画の組み込み等も可能ですが、ファイルサイズは合計**50MB**以下とします。
- ・資料を5/25(火)までにGoogleドライブ(ポスター発表者にはメールでアドレス案内)にアップロードしてください。
- ・資料掲示時間：5/27日(木)～5/29(土)12:00
- ・資料にはコメントがつきますので発表までにコメントを返していただいても良いですし、発表に回答を含めていただいても構いません。コメントの**解決ボタン**を押すとコメントが見られなくなりますので、**解決ボタン**を押さないようにご注意ください。

## 3. 問い合わせ先

ご不明の点がありましたら、下記連絡先までお問い合わせください。

### 【連絡先】

齋藤哲治（学会事務局）

〒104-0033 東京都中央区新川2-22-4 株式会社 共立

電話：03-3551-9891

E-mail : jaals2021a@gmail.com

## 学会賞審査委員からのお知らせ 日本沙漠学会若手会員のみなさんへ

学会賞担当理事 渡邊 三津子  
的場 泰信

日本沙漠学会では「奨励賞」「ベストポスター賞」など、若手研究者のみなさんを対象とした賞を設けています。

### 奨励賞

- 乾燥・半乾燥地に関する萌芽的研究業績を挙げた会員に授与されます。  
※ 『沙漠研究』に掲載された論文や研究業績に基づき、学会員の推薦を受けて審査されます。
- 満35歳以下の若手会員を対象としています。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

### ベスト ポスター 賞

- 研究内容、表現や説明技術、熱意などが優れているポスター発表に対して授与されます。
- 学術大会でポスター発表をする満35歳以下の学部生、大学院生と大学院修了・中退後3年未満の会員が対象となります。※ 社会人経験者など「若手相当」とみなされる方は満35歳以上であっても対象となります。

### メリット① 自分の研究について知ってもらえる

受賞者の研究は、学術大会だけでなくホームページなどで紹介されるので自分の研究について多くの人に知ってもらえる機会になります。

### メリット② 履歴書に書ける

「奨励賞」「ベストポスター賞」をもらったら、履歴書の賞罰の欄に書くことができるので、就職活動にも役立ちます。

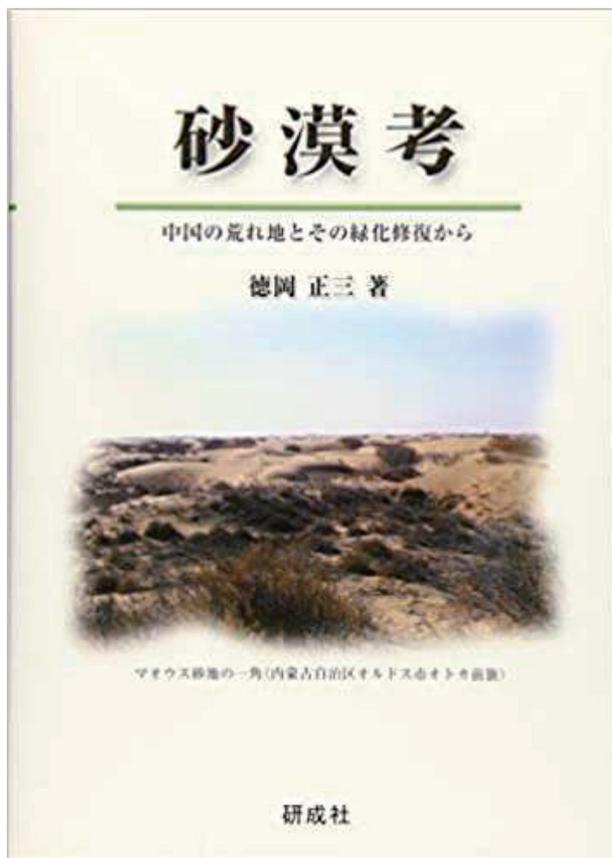
日本沙漠学会に所属する若手会員の皆さん  
全員にチャンスがあります！

学術大会で発表した人は、ぜひ  
沙漠研究に論文を投稿しましょう！

【問い合わせ先】日本沙漠学会 学会賞審査委員/E-mail: jaals@kyouritsu-online.co.jp

## 書評

徳永正三著：「砂漠考 中国の荒地とその緑化修復から」  
研成社, 2019年10月15日発行, 全193頁, 2,000円(税別)



本書の筆者が中国での調査研究を開始したのは京都府立大学在職中、1988年毛烏巣沙地での緑化研究がきっかけであった。その後、30年以上にわたって中国での共同研究を継続してきた。

「はじめに」で、筆者は中国での活動過程で生じた『砂漠』という言葉に対する疑問を発端に、desertに対する日本語と中国語のずれや『砂漠』の日中比較を通して、『砂漠』への疑問を解消するために書かれたものである、と述べている。しかしながら、『砂漠』という言葉の議論だけにとどまらず、本書には中国国内に位置する砂漠の地誌、中国国内での砂漠化の背景・原因に加えて、施策も含めた砂漠化修復に関する様々な対策について言及している。

本書が素晴らしいのは中国の文献をふんだんに引用している点である。直接文献収集・通読することが難しい

我々に対して、非常に豊富な情報が提供されている。また、著者の専門が林学であることから、中国の樹木に関する記述も多く、林学の専門外の読者にも中国の主な緑化用樹木の生理生態について大変分かりやすく解説されている。

本書は4部構成でその中にI~VI(章)が存在する構成になっており、各章のタイトルは以下の通りである。

- 1部 荒れの原…自然と人為
  - I 中国の荒地事情
  - II 荒地が広がる背景と起因
- 2部 修復の過程…いろいろな施策
  - III 緑化とその起業家と水の確保
- 3部 砂漠の原点…大量の砂の存在
  - IV 砂地と砂漠
  - V 砂の用不用
- 4部 言葉の問題…desertは砂漠か？
  - VI 砂漠を考える

本書のタイトルである「砂漠考」は、砂漠や砂漠化の現状を考えるだけでなく、「砂漠」という用語の適切さについて考えることも含んでいる。“desert”と「砂漠」、「沙漠」の関係について、4部では過去の様々な文献から論じている。表13はとくに労作で、100年以上にわたる辞書類に掲載されたdesertの漢訳・和訳の変遷について調べている。近年、中国では“desert”の包括的な訳語として「沙漠」に代わって「荒漠」を挙げているが、未だ「沙漠」が使われる機会が多く、その使い分けが徹底されていないとのことで、歴史的な経緯も含めて非常に参考になる。

ご存知のとおり、本学会は学会創立30周年記念事業の一環として昨年「沙漠学事典」を刊行した。その編集委員会でも「沙漠」か「砂漠」かで、非常に活発な議論がなされたことを思い出す。

“ネタバレ”になるが、筆者は「砂漠」に代わる用語として「荒地」「荒地」を提唱している。「荒地」、「荒漠」も含めて「砂漠」、「沙漠」の一体どれが一番適切な概念なのか、我々も考えていく必要がある。

本書では、本学会の名前が随所に出てくる。また、本学会員の文献も多数引用されている。学会員の皆さんには是非手に取っていただきたい一冊である。

(石川祐一)

## 学会記事

### 日本沙漠学会第 147 回理事会 議事録

日 時：2021 年 1 月 9 日（土）14：00～16：00

場 所：Web 会議

出 席：森尾貴広（会長）、鈴木伸治、田中徹（以上、副会長）、渡邊文雄、豊田裕道（以上、監事）、矢沢勇樹、川端良子、小島紀徳、石川祐一、渡邊三津子、的場泰信、田島淳、島田沢彦（以上、理事）、安部征雄（以上、顧問）、篠原卓、真田篤史（以上、総務委員）、齋藤哲治（事務局）、星野仏方（オブザーバー）

委任状：小長谷有紀

議 題：

#### I. 審議事項

##### 1. コロナ禍での大会開催について

- ・2021 年度学術大会（酪農学園大学（5/29-30））の準備状況について星野運営委員長から説明された。
- ・大会の会場や宿泊場所の確保、コロナ対策などについて準備が行われているが、昨今のコロナ感染拡大と社会情勢に鑑み、2021 年度学術大会はオンライン開催とすることが提案され、審議の結果承認された。
- ・大会の開催日程は変更せず、公開シンポジウムは中止とする。発表申し込み人数が少ない場合、オンライン大会中止の可能性もあることを含めて周知する。
- ・大会運営は本会主催とし企画委員会に委任する。酪農学園大学での開催について本年度は中止とし、次期以降に順延する。
- ・ポスター発表の有無は運営委員会内で今後検討する。
- ・株式会社共立にオンライン大会開催のサポートを依頼する。

##### 2. 鳥取大学乾燥地研究センターの共同利用・共同研究拠点申請のための協力

- ・森尾会長から、鳥取大学乾燥地研究センターの共同利用・共同研究拠点申請のための要望書作成依頼について説明があった。
- ・日本沙漠学会には、沙漠研究を行っている研究者が多く参加し、研究活動や発表も多く行われている。そのため、学会として要望書を作成する案が提案され、審議の結果承認された。

##### 3. 沙漠学会 Web ページの改善について

- ・森尾会長から、学会員へのサービス向上を目的とした Web ページ改善について説明があった。
- ・google document を利用したアンケート案が示された。閲覧者がアンケートへの回答やコメントの記入を行い、ドキュメント上で議論が可能である。

- ・理事会および評議員に回答を依頼し、3 月を目途に情報の収集と改善を行う予定である。

#### II. 報告事項

##### 1. 2020 年度秋季シンポジウム報告（11/26）

- ・石川理事から、2020 年度秋季シンポジウム開催報告および会計報告が行われた。
- ・シンポジウムは、11 月 26 日に北とぴあ・つつじホール（東京都北区）で、万全のコロナ対策のもと対面形式で開催された。参加者数は 30 名ほどであった。
- ・コロナウイルス感染拡大の第 3 波と重なり、当日の参加キャンセルもあったが、沙漠化と気候変動について損害補償など経済面からの環境問題への取り組みについても講演に含まれる内容であった。
- ・シンポジウム当日、講演要旨集は無料で配布しており、残部については希望者に配布可能である。
- ・開催日について、大学など教育機関所属の会員は週末開催の方が参加しやすいという意見が出たが、企業所属の会員から平日開催の要望があり、現在は平日に開催されていることが説明された。
- ・反省点としては本学会よりの参加者が少なかったのでも今後はより広く参加を促していく。また、当日参加ができなかった人にも視聴等ができる案がないか議論していく。

##### 2. 2021/9 DT-XIV (ICAL-4) 進捗

- ・川端理事から、DT-XIV の準備状況について説明があった。
- ・HP を更新し、2021 年 4 月を期日として参加申し込みを受け付け中であるが、締め切りを延長する方向で検討している。
- ・開催方法は、オンラインのみの開催も考えて、会場予定であった東京農業大学関係者と検討中である。
- ・講演会日程については、world conference calendar に掲載済みである。
- ・川端理事から、関係の研究者への情報共有の依頼があった。

##### 3. 投稿論文審査状況報告

- ・川端編集委員長から、投稿論文の審査および受付の状況について報告された。
- 現在査読中の論文は原著論文 1 本、資料・報告 1 本、展望論文 1 本である。
- ・編集委員から査読依頼をできる研究者がある程度限定されることと、人文系の論文が増えており、人文系専門の研究者への査読依頼と負担が増えている現状から、編集委員の構成を再検討することが報告さ

れた。

#### 4. 学会賞受付状況報告

- ・渡邊理事から、学会賞受付状況について説明があった。
- ・推薦締め切りは2月28日であるが、現時点では学会賞、奨励賞ともに推薦がない。

#### 5. 財務報告

- ・矢沢理事から財務状況について説明があった。
- ・年会費は現時点で63%しか納入されていない。渡邊監事から今年度中に督促するよう指摘があった。
- ・冊子「沙漠研究」は、オンラインジャーナル化と年一回本本の送付に変更となり、購読会員および賛助会員への周知も既に行われたが、現在までに3件の購読会員と、3件の賛助会員から購読申込があった。
- ・矢沢理事から分科会交付金について、その執行を決算報告時に事後報告することが多いが、事前に予算申請し、その内容に沿って執行、決算報告するよう依頼があった。今後の分科会の企画についても、申請予定の場合は早めに連絡をお願いしたい。

#### 6. おあしす 30-3

- ・島田理事から、おあしすの作成状況について報告があった。
- ・表紙ははやぶさ2関連の写真であり、著作権の問題から一枚差し替えを予定している。
- ・2021年度大会情報はオンライン開催に向けて内容を修正する。
- ・鈴木副会長から、現評議員である白石雅美氏の退会に伴い、評議員の補充が必要であることが説明された。評議員の補充は、選挙で次点の会員を会長が繰り上げ指名する必要がある。会長の指名を受け、次点の北村会員に評議員就任を打診することが承認された。

#### 7. 地理学連合運営会議報告 (11/5)

- ・島田理事から11月5日に行われた運営会議の内容について報告があった。
- ・各学会へ大会オンライン開催の情報共有を依頼したところ、地理情報システム学会からZoomでのオンライン開催およびYouTubeでの同時配信を行ったとの情報を得た。参加費無料にすることで聴講者を増やせることも情報共有された。
- ・地理関連学連合イベント共催・後援を依頼する際の申請方法について説明があった。
- ・次回運営会議は2021年2月17日に開催される。

#### 8. 日本地球惑星科学連合第23回学協会長会議(12/2)

- ・森尾会長から12月2日にオンライン開催された会議の内容が説明された。
- ・2021年度大会は、5月30日～6月6日にオンラインと対面のハイブリッド形式で行われる。

- ・これまでは大会運営を参加費で担ってきたが、参加者数は減少傾向にあるため、安定した運営のために学協会が支払う会費での運営に変更する。そのため、学会への会費(現在1万円)の値上げを検討中である。
- ・日本地球惑星科学連合は日本学術会議とも直結しており、個々の研究者の考えや意見を、各学会を通じて届ける役割も担っていることが説明された。

#### 9. その他

- ・安部顧問から名誉会員への推薦者の提案があり、これについて諮られ承認された。次回の理事会の議題とすることとした。なお、名誉会員を推薦する場合、4月の理事会で理事の承認を得たうえで総会でも承認を得る必要があることが確認された。

### III. その他

- 今後の学術大会・シンポジウムの日程・開催地および開催形式の確認
  - ・以下の通り、実施予定あるいは検討中である。2021年度学術大会：酪農学園大学はZoomによるオンライン開催に変更
  - 2021/9 DT-XIV (ICAL-4)：オンライン開催もしくはオンラインと対面のハイブリッドを検討中
  - 2022年度学術大会：宮崎大学(入江会員)には鈴木副会長から2022年度の担当を依頼済みである。ただし、北海道大会の次年度順延を受けて2023年開催の可能性について打診の必要性を確認した。
- 学会誌・ニューズレターの電子化・年一回発行化に伴う規約改正の必要性
  - ・現時点では内規の変更の必要はないことを確認。
- 「沙漠学事典」書評について
  - ・日本リモートセンシング学会誌掲載の書評が共有された。
  - ・日本写真測量学会は依頼済みであり、入稿待ちの状態である。
- 「砂漠考」書評(おあしす)
  - ・2021年4月号のおあしす掲載を目指す。
- 決算・予算、活動報告・計画の準備依頼
  - ・次の理事会は、総会準備が必要なため、各担当者は資料の準備・取りまとめを行う。
- 拡大編集委員会(1/9:理事会終了後)
  - ・以下の内容について議論予定：
    - 30周年記念Reviewについて
    - DT14ICALの投稿論文について
    - 編集委員の拡大・変更について
    - その他
- 第148回理事会は、2021年4月10日(土)13:00～15:00にZoom開催予定。評議員会は、その後15:00から同じくZoomで開催予定。

\* \* \* \* \* 会 員 動 向 \* \* \* \* \*

●新入会員

正会員

マイクエバス セルヒオ アサエル  
(ID : 1149, 東京農業大学)

山本 裕基 (ID : 1150, 長崎大学)

学生会員

山本 真希 (ID : 1151, 東京農工大学)

●退会会員

正会員

鈴木 潤

加藤 茂

木浦 卓治

鮫島 良次

近藤 昭彦

窪田 順平

小林 裕三

長井 宏治

学生会員

エノウ エマニエル

秦 龍

\*\*\*\*\* 賛助会員・団体会員名簿 \*\*\*\*\*

アースアンドヒューマンコーポレーション	194-0041	町田市玉川学園 8-3-23	Tel : 042-710-7661
株式会社ウイジン	158-0097	世田谷区用賀 2-12-14	Tel : 03-3700-0531
NTC インターナショナル株式会社	136-0071	東京都江東区亀戸 1-42-20	Tel : 03-6892-3401
株式会社大林組技術研究所	204-8558	清瀬市下清戸 4-640	Tel : 0424-95-1060

\*\*\*\*\*